

3 飼料生産の動向

(1) 自給飼料

① 飼料作物の作付状況（令和4年）

- ・ 作付面積 31,728ha（前年比104.7%） ※草地・野草地は含まない
田11,385ha（同109.3%），畑20,343ha（同102.2%）

【動向】田・畑の作付面積は前年度より増加

② 飼料用稲の作付状況（令和4年）

- ・ 作付面積 4,502ha（前年比109.0%）
- ・ W C S用稲は，平成29年度まで急激に面積が拡大し，以後は減少傾向で推移したが，令和4年度は再び増加（3,667ha（前年比106.3%））
- ・ 飼料用米は，平成20年に生産が開始され，南薩及び始良，出水地域を中心に，平成29年度まで面積が拡大し，以降は減少傾向にあったが，令和4年度は再び増加（835ha（前年比123.0%））

③ 稲わらの利用状況（令和4年）

- ・ 飼料利用量 45,450t（利用率51.3%）

④ 放牧利用の状況（令和4年）

- ・ 放牧面積 1,833ha（前年比95.8%）
 - ・ 放牧頭数 3,758頭（同 99.6%）
- 【動向】放牧面積・頭数とも昨年度より減少

⑤ 飼料生産・販売組織の取組状況（令和4年）

- ・ 組織数 37組織
 - ・ 作業受託等面積 2,948ha（受託作業1,881ha，飼料販売1,067ha）
- 【動向】組織は昨年度と同数，作業受託面積は減少

⑥ 地域低・未利用資源の飼料利用の状況（令和4年）

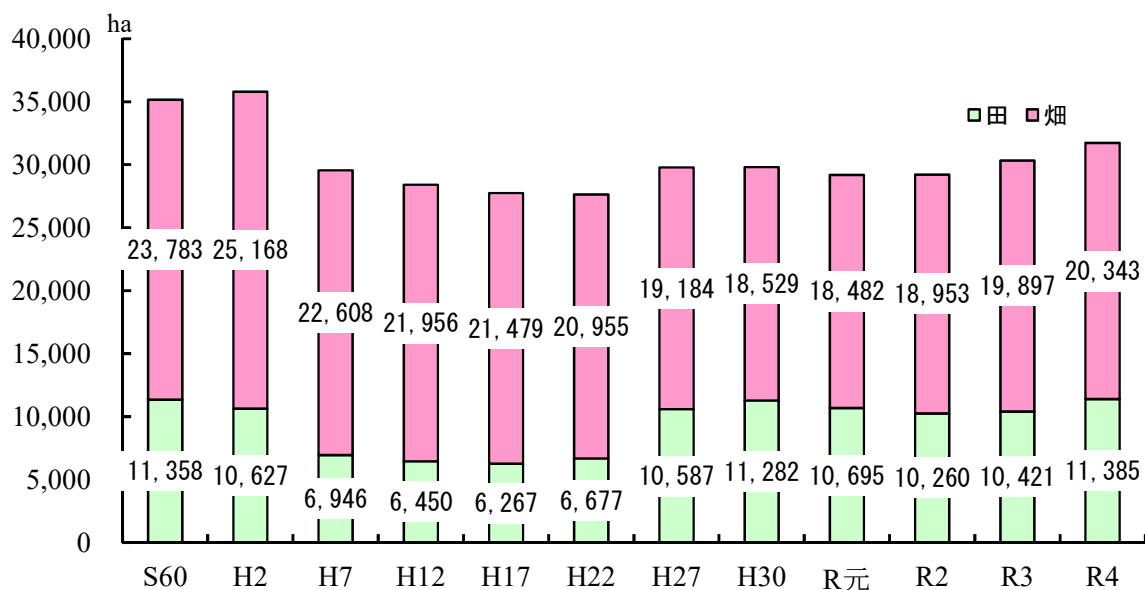
- ・ でん粉粕 3,547t（利用率42.8%）
 - ・ 焼酎粕 127,003t（同 67.2%）
 - ・ さとうきび梢頭部 22,726t（同 40.3%）
 - ・ さつまいも茎葉 4,822t（同 2.2%）
- 【動向】粕類や農場副産物の飼料利用は，発生量に伴い変動
飼料利用率は減少傾向

⑦ 大家畜の飼料自給率（令和4年）

- ・ 粗飼料自給率 85.1%
- ・ 飼料（全体）自給率 29.8%

【動向】粗飼料自給率や飼料自給率は平成28年以降，肉用牛の頭数増加に伴い減少傾向。令和4年は飼料作物の作付が拡大する一方，肉用牛の頭数増加に伴い昨年より減少。

ア 飼料作物の作付状況

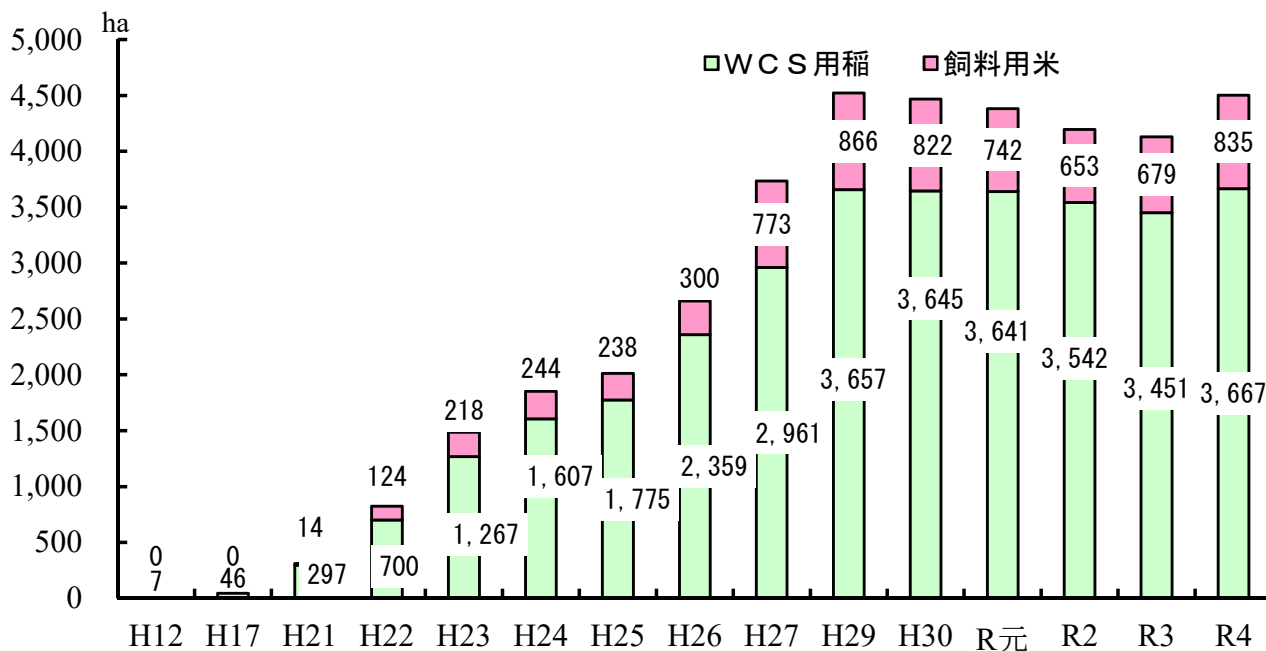


(単位：ha, %)

年次	田		畑		計	
	面積	対前年比	面積	対前年比	面積	対前年比
S60	11,358	90.3	23,783	100.9	35,140	94.0
H2	10,627	101.4	25,168	104.3	35,795	103.4
H7	6,946	94.7	22,608	95.2	29,554	95.1
H12	6,450	103.2	21,956	102.4	28,406	102.6
H17	6,267	90.5	21,479	99.4	27,746	97.2
H22	6,677	109.5	20,955	99.0	27,631	101.3
H27	10,587	124.1	19,184	96.0	29,771	104.4
H30	11,282	98.5	18,529	101.7	29,844	100.5
R元	10,695	105.7	18,482	96.6	29,177	99.9
R2	10,260	95.9	18,953	102.5	29,213	100.1
R3	10,421	101.6	19,897	105.0	30,318	103.8
R4	11,385	109.3	20,343	102.2	31,728	104.7

資料：県畜産課調べ

イ 飼料用稲の作付状況

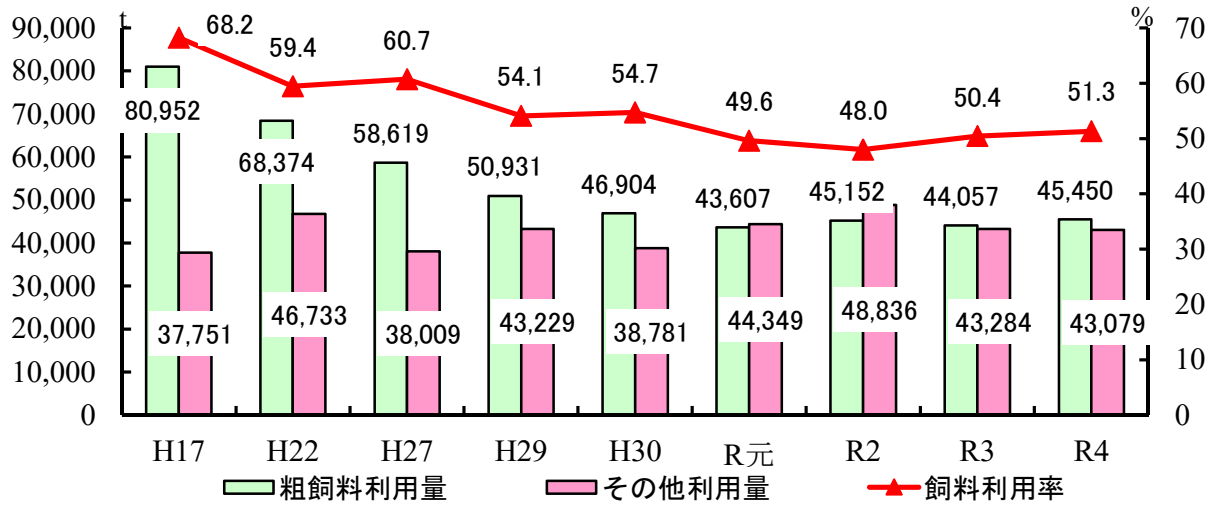


(単位：ha, %)

年次	WCS用稲		飼料用米		計	
	面積	対前年比	面積	対前年比	面積	対前年比
H12	7.0	-	0.0	-	7.0	-
H17	46.0	153.3	0.0	-	46.0	153.3
H21	297.5	106.6	14.0	233.3	311.5	677.2
H22	700.0	235.3	124.3	887.9	824.3	264.6
H23	1,266.7	181.0	218.5	175.8	1,485.2	180.2
H24	1,607.1	126.9	243.6	111.5	1,850.7	124.6
H25	1,775.5	110.5	237.8	97.6	2,013.3	108.8
H26	2,358.7	132.8	300.0	126.2	2,658.7	132.1
H27	2,961.0	125.5	773.0	257.7	3,734.0	140.4
H29	3,657.0	114.8	866.0	110.2	4,523.0	113.8
H30	3,645.0	99.7	822.0	94.9	4,467.0	100.0
R元	3,641.0	99.9	742.0	90.3	4,383.0	98.1
R2	3,542.0	97.3	653.0	88.0	4,195.0	95.7
R3	3,451.0	97.4	679.0	104.0	4,130.0	98.5
R4	3,667.0	106.3	835.0	123.0	4,502.0	109.0

資料：県畜産課調べ

ウ 稲わらの利用状況



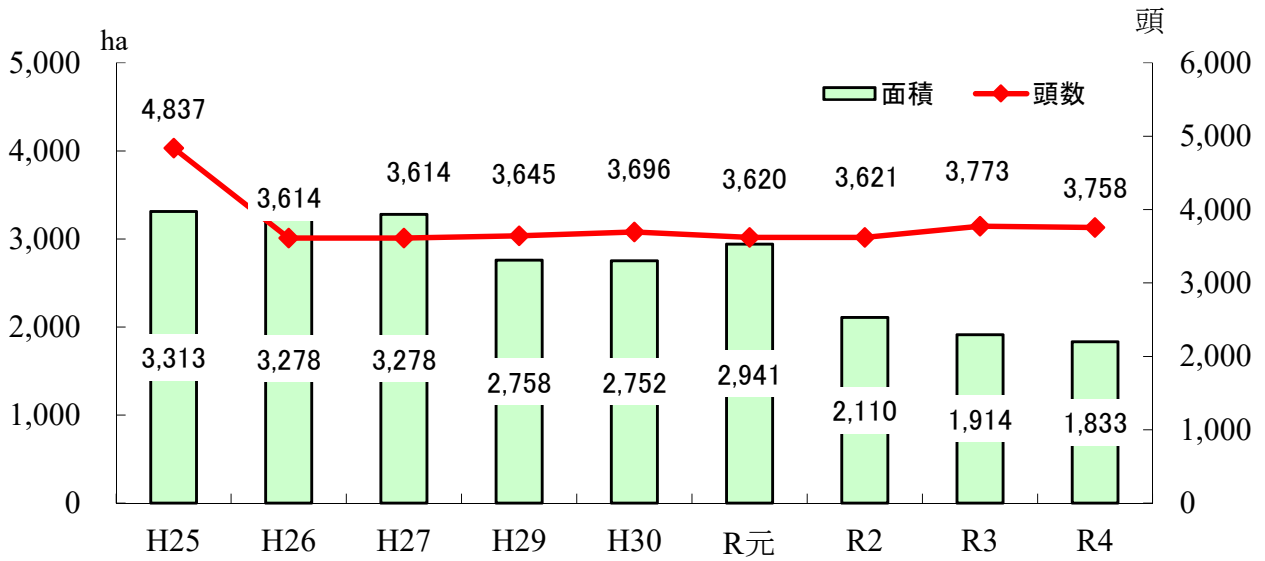
(単位：t, %)

年度	作付面積	稲わら発生量	稲わら利用量					
			粗飼料	畜舎敷料	すき込み	堆肥	焼却	その他(加工等)
H17	25,800	118,703	80,952	7,405	16,043	5,910	1,983	6,410
			68.2	6.2	13.5	5.0	1.7	5.4
H22	24,800	115,107	68,374	5,187	28,671	3,388	1,396	8,091
			59.4	4.5	24.9	2.9	1.2	7.0
H25	23,500	104,267	68,677	4,037	24,039	1,624	1,389	4,502
			65.9	3.9	23.1	1.6	1.3	4.3
H27	21,600	96,628	58,619	3,649	27,758	1,371	1,714	3,517
			60.7	3.8	28.7	1.4	1.8	3.6
H29	20,400	94,160	50,931	3,102	32,750	1,401	2,097	3,879
			54.1	3.3	34.8	1.5	2.2	4.1
H30	19,200	85,685	46,904	3,424	28,099	1,130	2,433	3,695
			54.7	4.0	32.8	1.3	2.8	4.3
R元	19,500	87,958	43,607	3,256	32,514	1,422	3,391	3,766
			49.6	3.7	37.0	1.6	3.9	4.3
R2	19,300	93,987	45,152	3,547	35,652	1,345	4,266	4,026
			48.0	3.8	37.9	1.4	4.5	4.3
R3	18,600	87,341	44,057	3,319	30,147	1,443	4,319	4,056
			50.4	3.8	34.5	1.7	4.9	4.6
R4	18,000	88,529	45,450	2,971	30,914	1,332	3,641	4,221
			51.3	3.4	34.9	1.5	4.1	4.8

資料：県畜産課調べ

稲わら利用量の欄：上段は利用量，下段は発生量に対する構成比

エ 放牧利用の状況

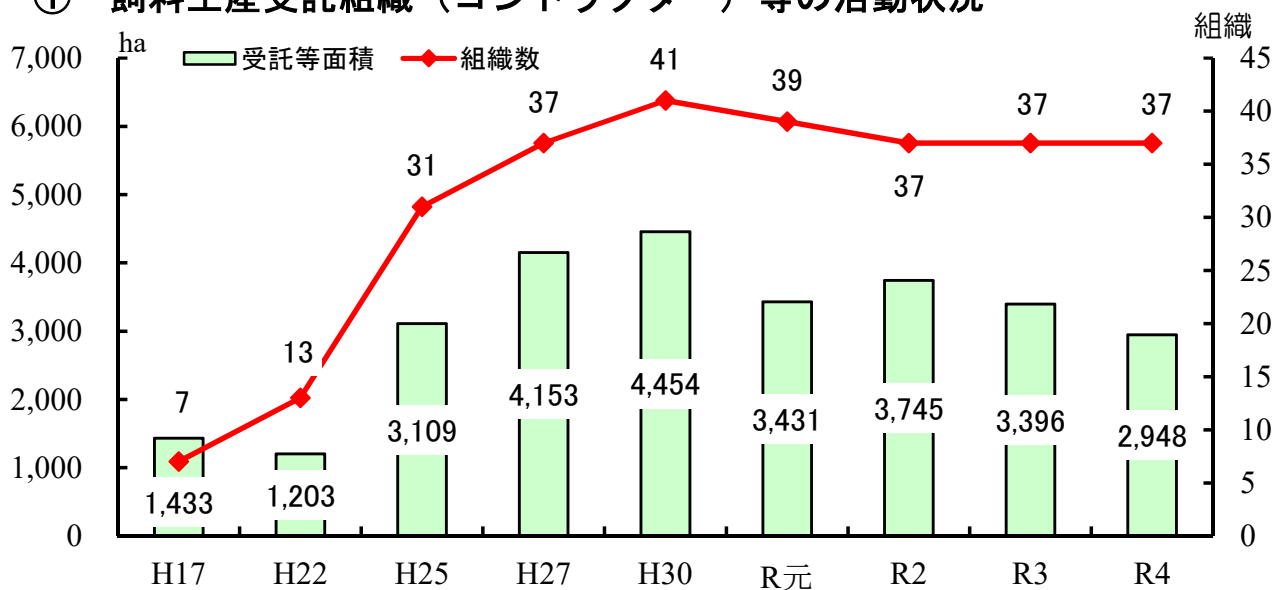


区分		放牧利用の状況	
		面積	頭数
		ha	頭
H25	公共牧場	602	2,103
	公共牧場以外	2,711	2,734
	計	3,313	4,837
H27	公共牧場	583	676
	公共牧場以外	2,695	2,938
	計	3,278	3,614
H29	公共牧場	562	688
	公共牧場以外	2,196	2,957
	計	2,758	3,645
H30	公共牧場	468	720
	公共牧場以外	2,284	2,976
	計	2,752	3,696
R元	公共牧場	474	781
	公共牧場以外	2,467	2,839
	計	2,941	3,620
R2	公共牧場	474	755
	公共牧場以外	1,636	2,866
	計	2,110	3,621
R3	公共牧場	429	772
	公共牧場以外	1,485	3,001
	計	1,914	3,773
R4	公共牧場	384	803
	公共牧場以外	1,449	2,955
	計	1,833	3,758

資料：県畜産課調べ

オ 飼料生産支援組織の取組状況

① 飼料生産受託組織（コントラクター）等の活動状況



(単位：組織， ha)

年度	組織数	作業別受託等の面積					計
		飼料収穫	作付作業	稲わら等収穫	その他	飼料生産・販売	
H17	7	1,010	155	93	175		1,433
H22	13	625	314	34	230		1,203
H25	31	1,706	369	182	184	668	3,109
H27	37	2,212	475	154	386	926	4,153
H30	41		3,252			1,202	4,454
R元	39		2,380			1,051	3,431
R2	37		2,551			1,194	3,745
R3	37		2,225			1,171	3,396
R4	37		1,881			1,067	2,948

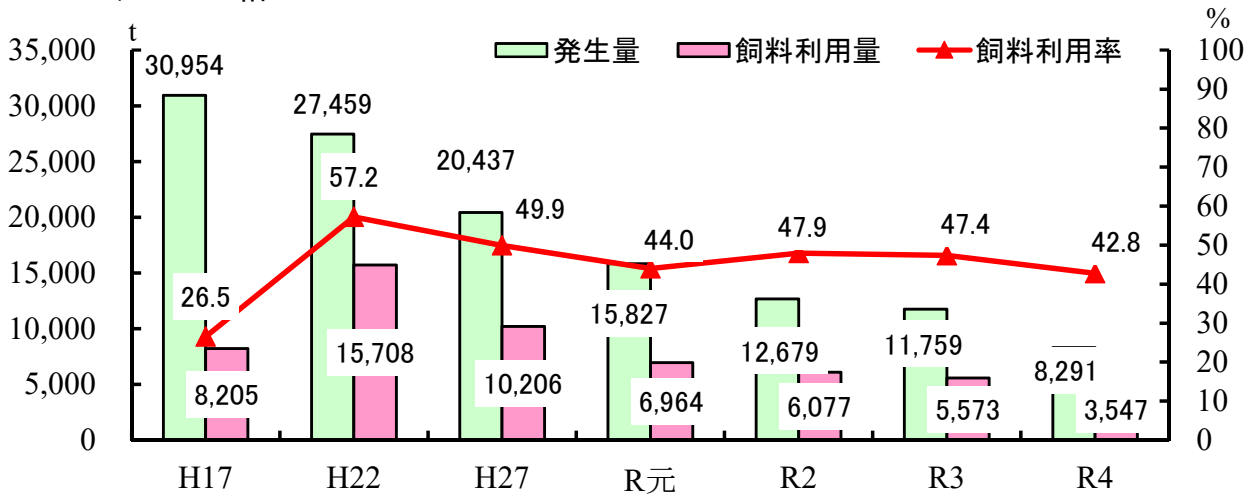
作付作業には耕起作業を含む。 その他には、堆肥散布，ラップ調整作業等含む。

H23年度からは，飼料生産販売組織を含む。

資料：県畜産課調べ

カ 地域低・未利用資源の飼料利用の状況

(1) デンプン粕

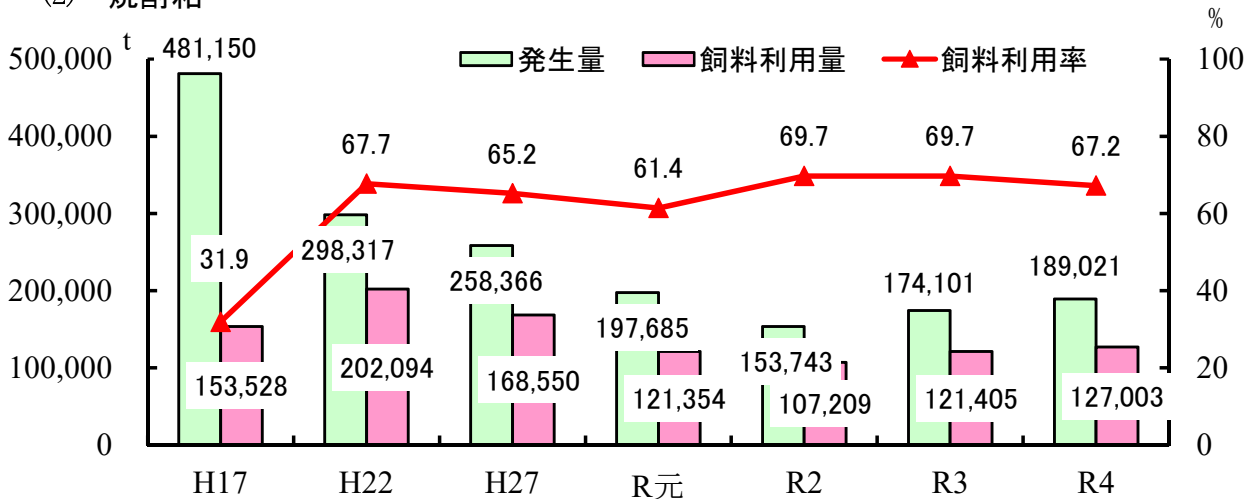


(単位：t, %)

区分	H17	H22	H27	R元	R2	R3	R4
発生量	30,954	27,459	20,437	15,827	12,679	11,759	8,291
飼料利用量	8,205	15,708	10,206	6,964	6,077	5,573	3,547
飼料利用率	26.5	57.2	49.9	44.0	47.9	47.4	42.8

資料：県農産園芸課調べ

(2) 焼酎粕

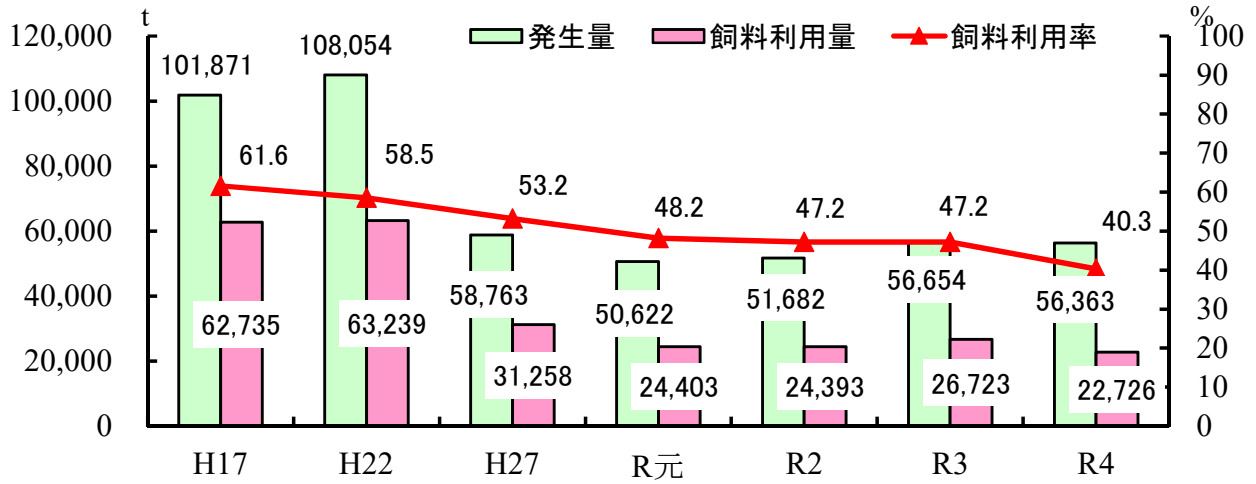


(単位：t, %)

区分	H17	H22	H27	R元	R2	R3	R4
発生量	481,150	298,317	258,366	197,685	153,743	174,101	189,021
飼料利用量	153,528	202,094	168,550	121,354	107,209	121,405	127,003
飼料利用率	31.9	67.7	65.2	61.4	69.7	69.7	67.2

資料：県販路拡大・輸出促進課調べ

(3) さとうきび梢頭部

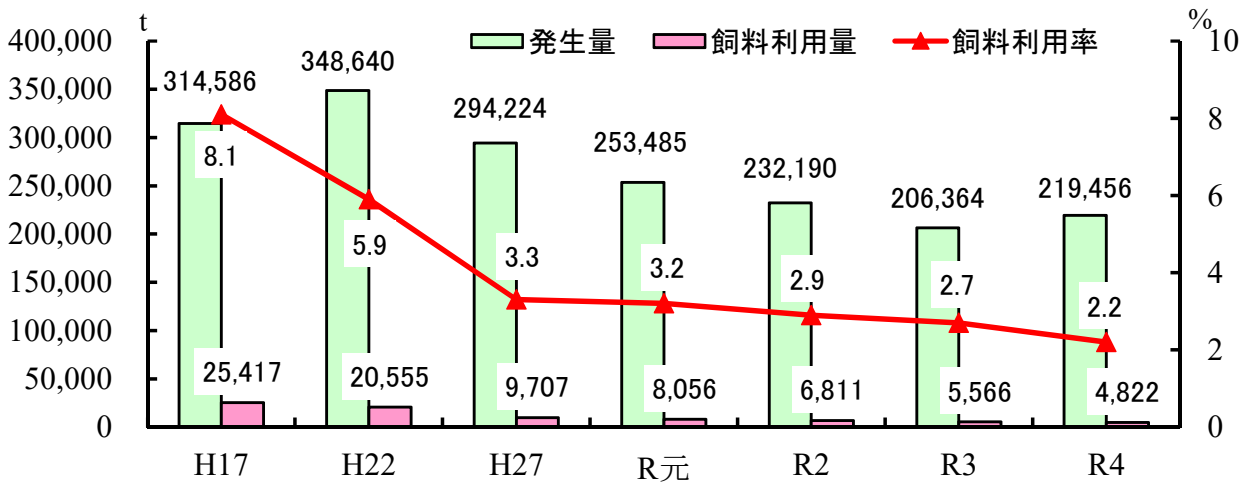


(単位：t, %)

区分	H17	H22	H27	R元	R2	R3	R4
発生量	101,871	108,054	58,763	50,622	51,682	56,654	56,363
飼料利用量	62,735	63,239	31,258	24,403	24,393	26,723	22,726
飼料利用率	61.6	58.5	53.2	48.2	47.2	47.2	40.3

資料：県畜産課調べ

(4) さつまいも茎葉

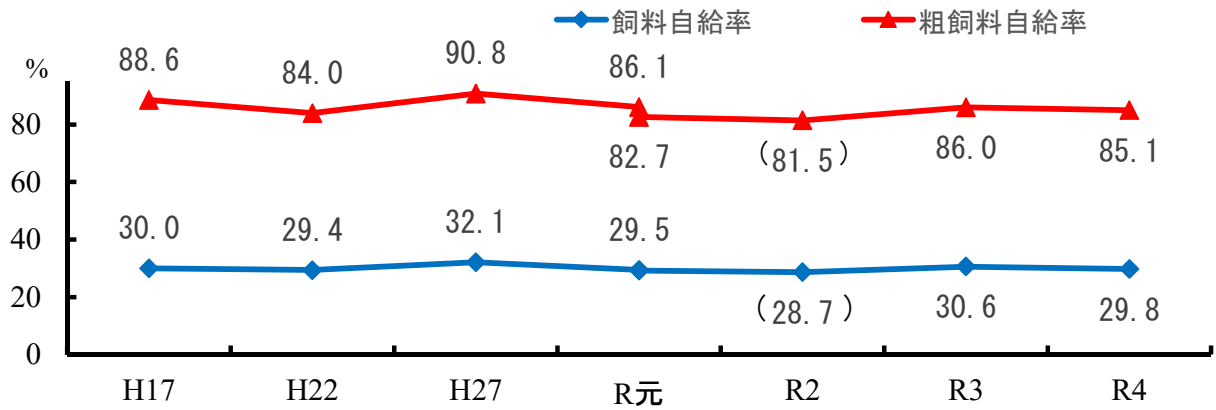


(単位：t, %)

区分	H17	H22	H27	R元	R2	R3	R4
発生量	314,586	348,640	294,224	253,485	232,190	206,364	219,456
飼料利用量	25,417	20,555	9,707	8,056	6,811	5,566	4,822
飼料利用率	8.1	5.9	3.3	3.2	2.9	2.7	2.2

資料：県畜産課調べ

キ 大家畜の飼料自給率（推移）



	H17	H22	H27	R元	R2	R3	R4
飼料自給率	30.0	29.4	32.1	29.5(29.2)	28.7	30.6	29.8
粗飼料自給率	88.6	84.0	90.8	86.1(82.7)	81.5	86.0	85.1

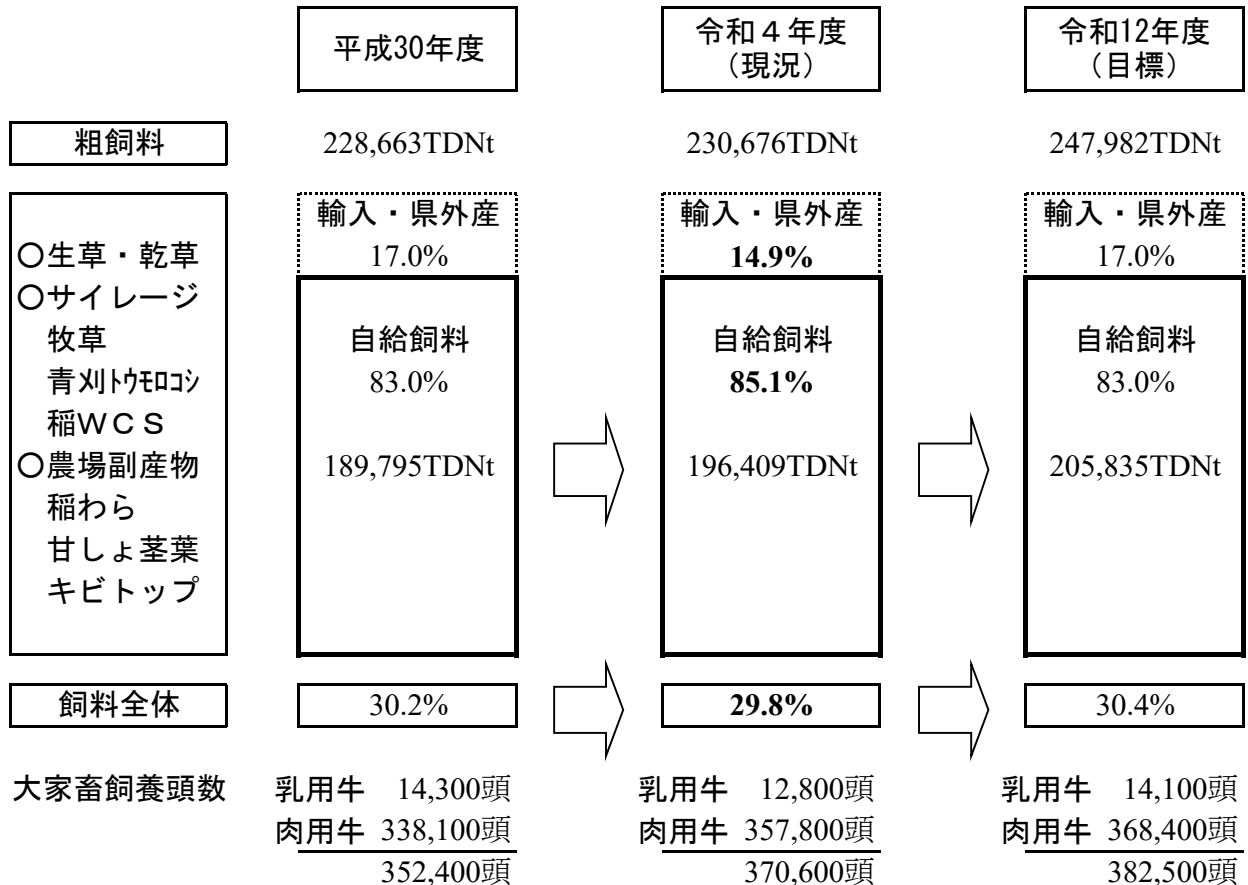
※令和元年度までの自給率は「鹿児島県酪農・肉用牛生産近代化計画（平成28年3月）」に基づき算出。

令和2年度以降は令和3年3月策定の新たな計画書に基づき自給率を算出。

なお、参考として令和元年度の（）内に新たな計画書に基づく自給率を記載。

※自給率の相違は、乳用牛及び肉用牛における年間必要TDN量等の増減による。

ク 大家畜の飼料自給率の現状と目標



ケ 粗飼料の輸入状況

(1) 全国輸入量(財務省貿易統計)

単位:トン

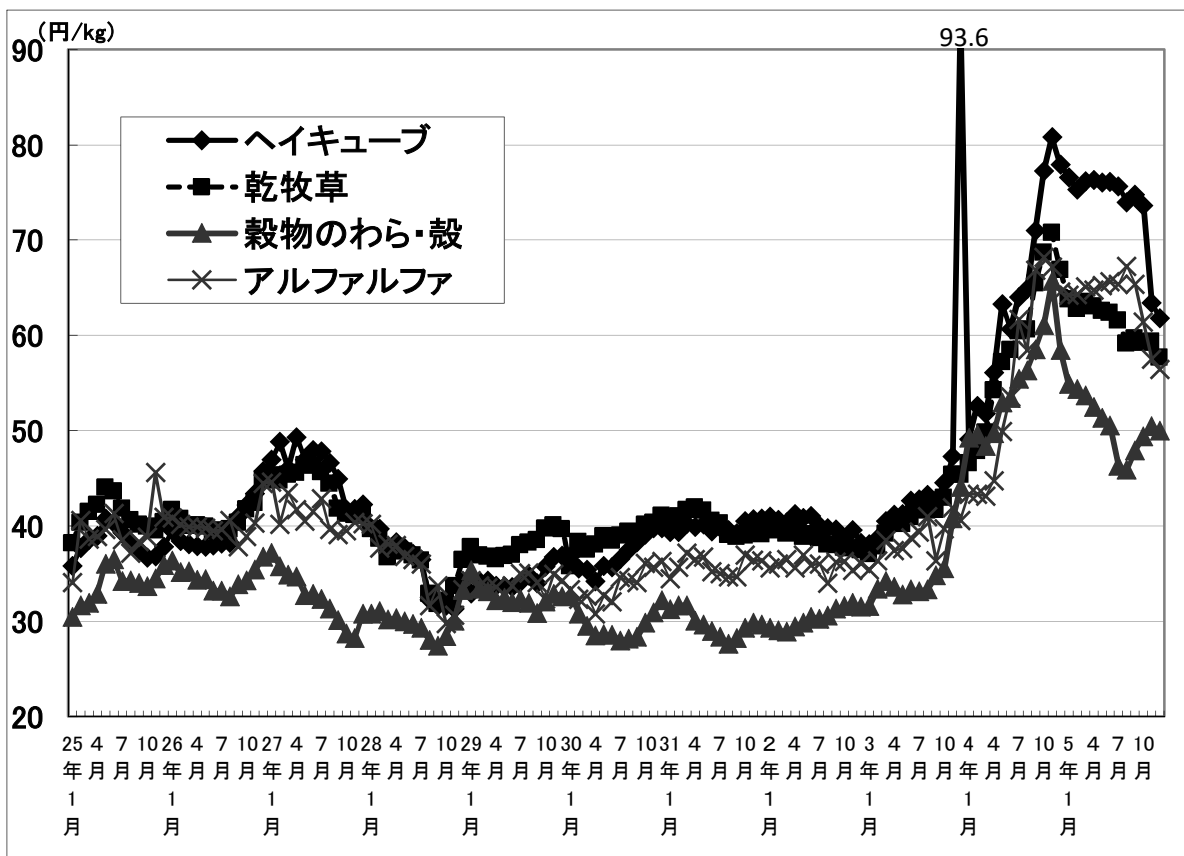
年次	乾牧草	ハイキューブ	穀類のわら・殻		合計	備考	
			うち中国産	うち韓国産			
R元	2,045,522	142,757	340,210	224,354	0	2,528,489	主要輸入国
R2	2,016,679	140,657	355,018	217,920	0	2,512,354	乾牧草
R3	2,023,376	130,682	364,354	233,655	0	2,518,412	①アメリカ②オーストラリア
R4	2,095,764	128,507	370,382	214,449	0	2,594,653	ハイキューブ
R5	1,642,940	84,329	334,958	197,083	0	2,062,227	①アメリカ②オーストラリア
対前年比	78.4%	65.6%	90.4%	91.9%	0	79.5%	

(2) 県内輸入量(資料:財務省貿易統計)

単位:トン, 円/kg

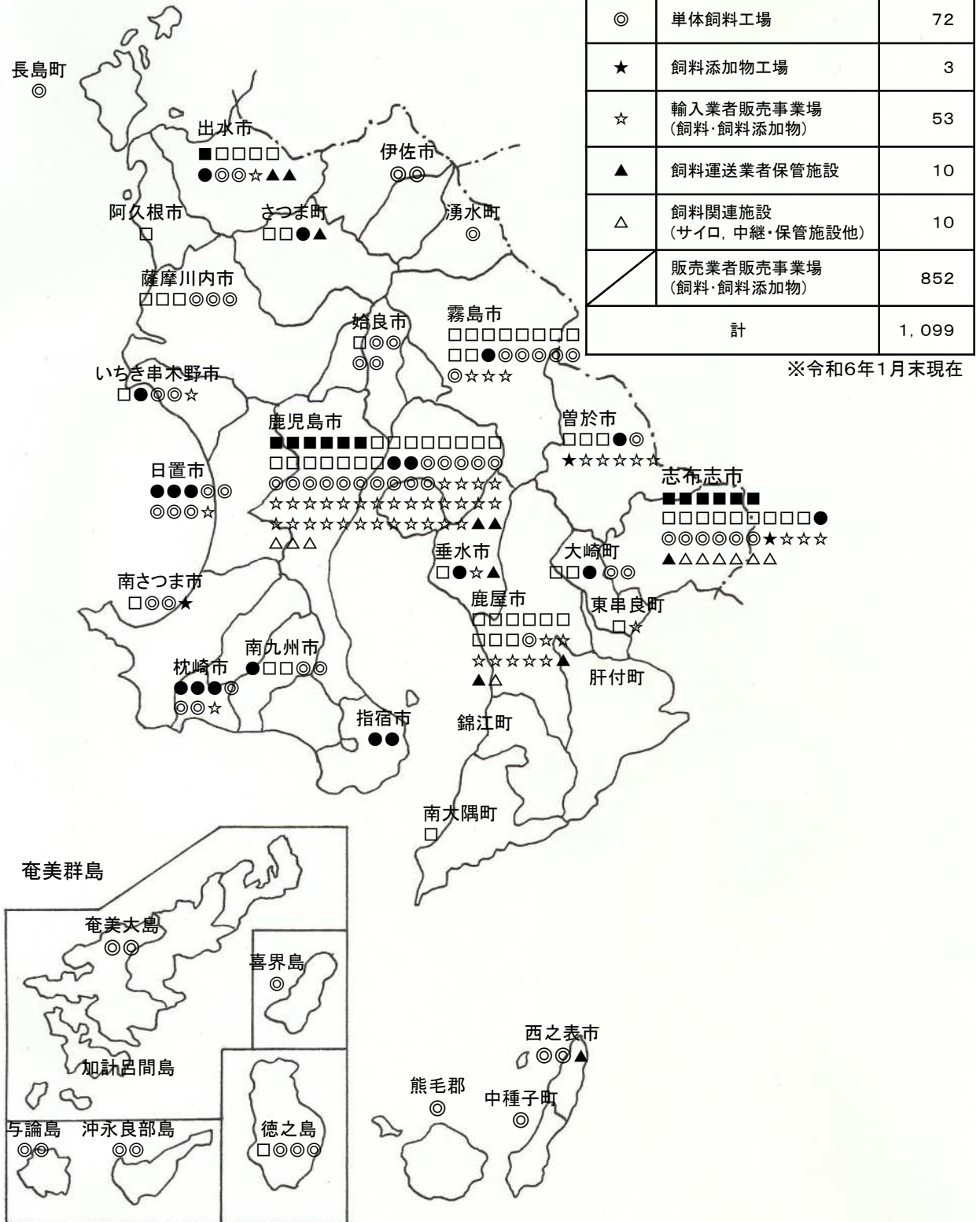
年次	乾牧草		ハイキューブ		穀類のわら・殻				合計		
	量	価格	量	価格	うち中国産		うち韓国産		量	価格	
					量	価格	量	価格			
R元	167,235	39.11	17,935	42.48	92,147	28.10	85,149	27.83	0	-	277,317
R2	170,318	36.49	18,627	43.12	86,193	30.46	76,392	30.49	0	-	275,138
R3	183,909	38.35	16,609	45.06	84,152	35.71	75,425	36.28	0	-	284,670
R4	171,229	54.80	15,306	72.70	100,105	58.05	84,400	60.07	0	-	286,640
R5	149,886	56.26	15,073	81.63	100,459	51.23	80,372	52.52	0	-	265,418
対前年比	87.5%	102.7%	98.5%	112.3%	100.4%	88.3%	95.2%	87.4%	-	-	92.6%

(3) 粗飼料の輸入価格推移(全国)



(2) 配合・混合飼料

ア 県内の配合・混合飼料工場等関連施設

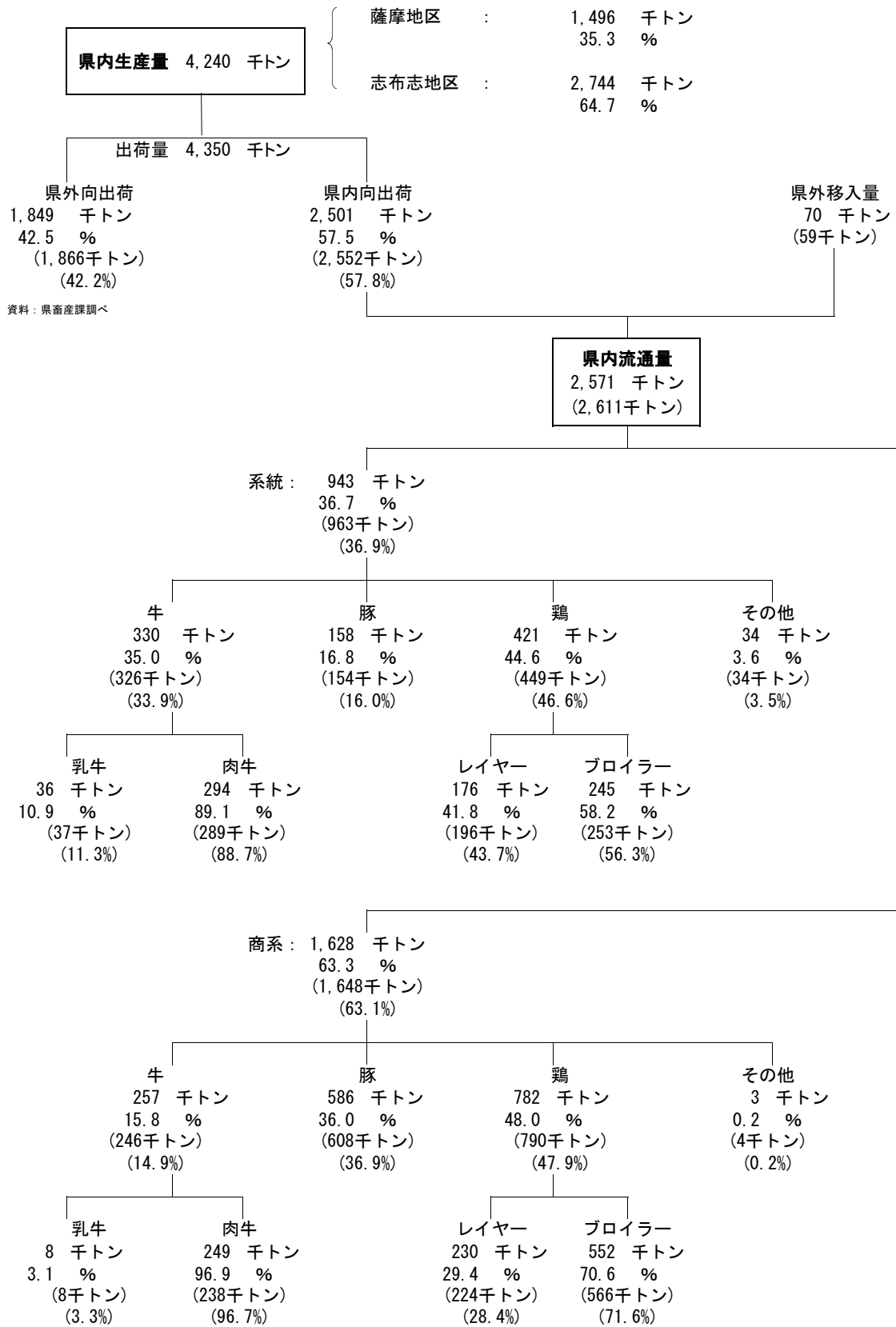


記号	名 称	箇所数
■	承認配合飼料工場	13
□	その他配・混合飼料工場	67
●	動物性たん白質飼料工場	19
◎	単体飼料工場	72
★	飼料添加物工場	3
☆	輸入業者販売事業場 (飼料・飼料添加物)	53
▲	飼料運送業者保管施設	10
△	飼料関連施設 (サイロ、中継・保管施設他)	10
◻	販売業者販売事業場 (飼料・飼料添加物)	852
計		1,099

※令和6年1月末現在

承認工場とは、関税定率法第13条第1項に基づく鹿児島税関支所長の承認を受けた配合飼料工場である。(配合飼料に使用する輸入原料品の関税について免除又は減税)

イ 配合・混合飼料の流通の概要



資料：県畜産課調べ

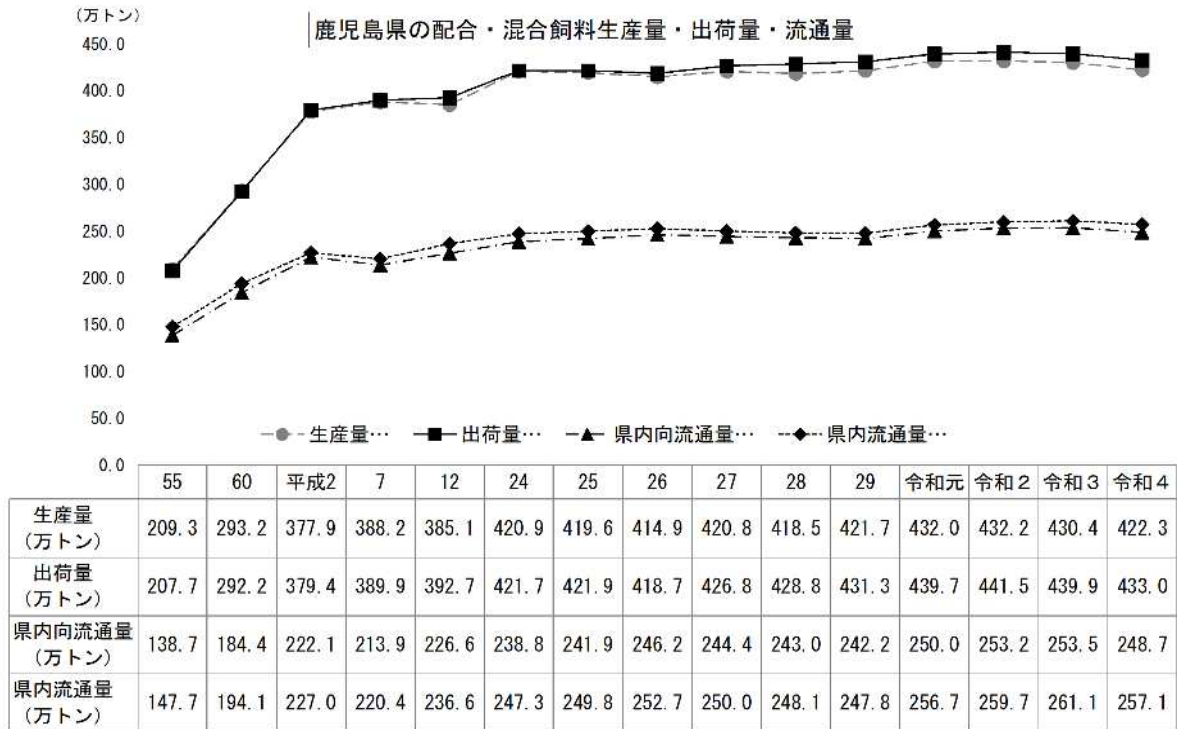
※1 数字は令和4年度のもの。

※2 ()の数字は、令和3年度のもの。

※3 全国の配合・混合飼料の生産量は、令和4年度24,055千トン、令和3年度24,234千トンとなっている。

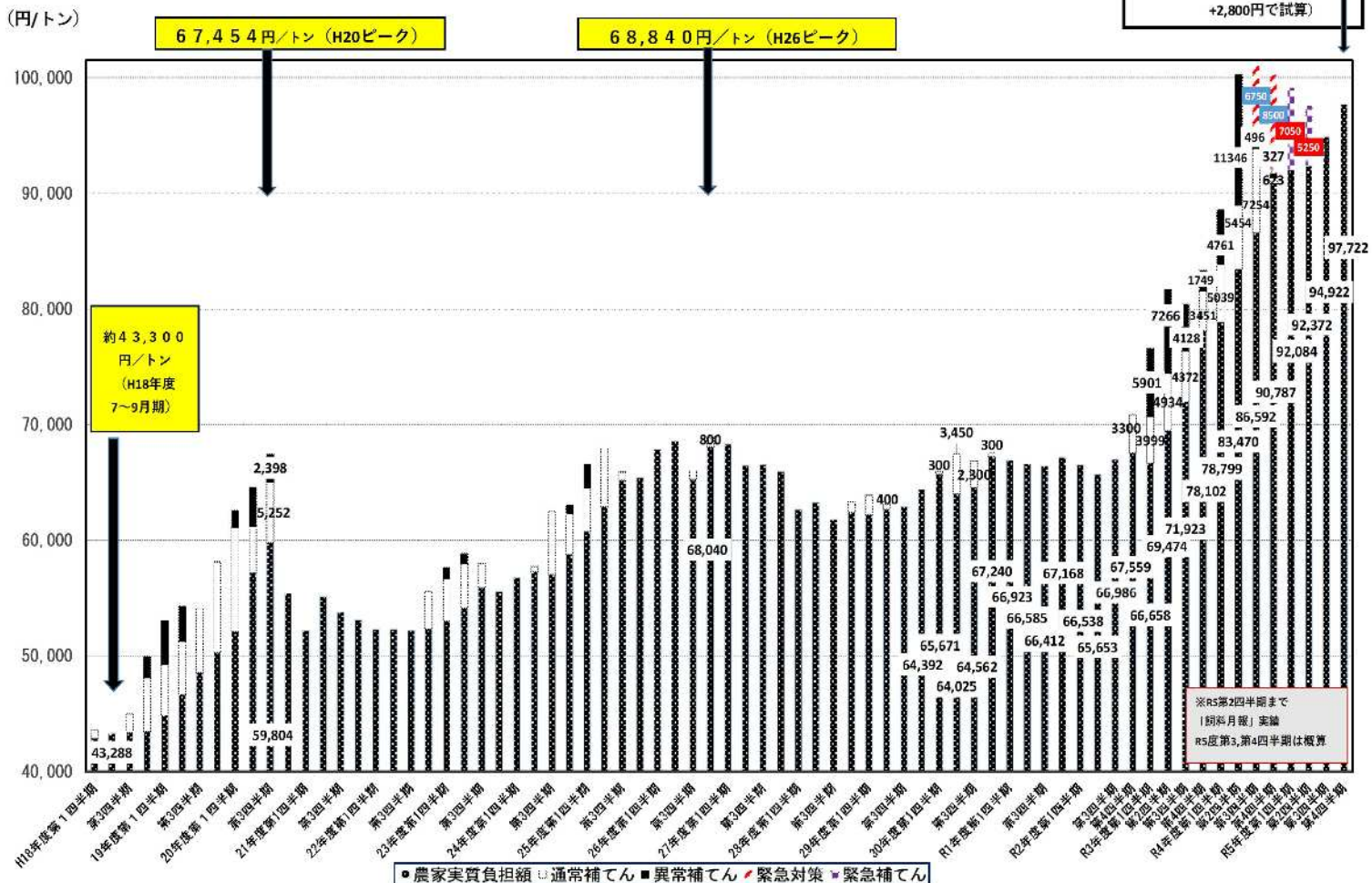
ウ 鹿児島県内における配合・混合飼料の生産量・出荷量及び流通量の推移

本県の配合・混合飼料の生産量・出荷量及び流通量は、畜産の発展に相まって昭和48年頃から着実な伸びを示してきた。令和4年度の生産量は422万トンで、出荷量は433万トンである。この出荷量のうち県内向けが249万トン(出荷比率57.4%)で、残り184万トン(出荷比率42.6%)が宮崎県の148万トン(出荷比率34.3%)を中心に九州各県へ出荷されている。県内の流通量は257万トンであり、県内産の供給率は96.7%である。残り3.3%の8万4千トンが県外からの移入量である。



資料：飼料月報

エ 配合飼料価格の動向



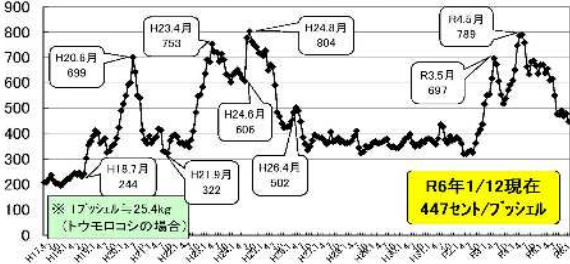
資料：県畜産課調べ

オ 配合飼料価格決定要因の動向(月別平均値)

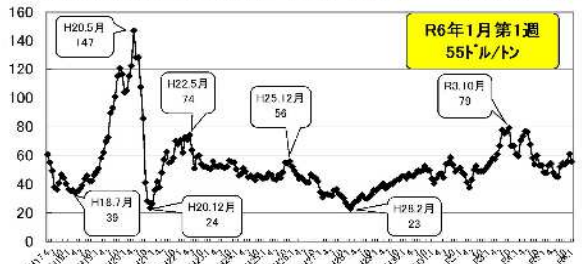
配合飼料価格決定要因の動向(月別平均値)

- 配合飼料価格には、原料割合として約47%を占めるとうもろこしや約13%を占める大豆油かすの価格のほか、海上運賃や為替相場が影響。
- とうもろこしの国際価格(シカゴ相場)は、ロシアによるウクライナ侵攻などから800セント/ブッシェル前後まで急騰、その後需給ひっ迫の懸念が後退し、米国や南米の需給等の動向を受け、1/12現在447セント/ブッシェル前後で推移している。大豆油かすは、大豆油の需給や中国の飼料需要の動向等により変動、1/12現在350ドル/ショートン前後で推移している。
- 海上運賃(フレート)は、船腹需要の減少の影響で下落したが、パナマ運河水位の通航制限によりR6年1月第1週は55ドル/トン前後で推移している。また、為替相場は、大きく変動しており、1/15現在145円/ドル程度で推移している。

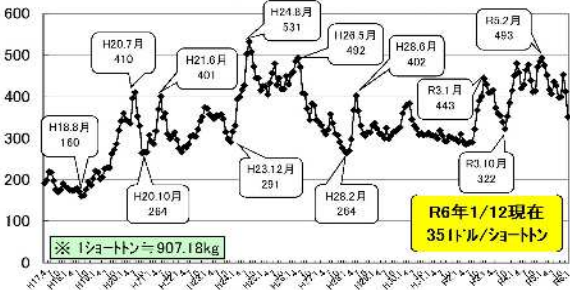
○ トウモロコシのシカゴ定期推移 (単位:セント/ブッシェル)



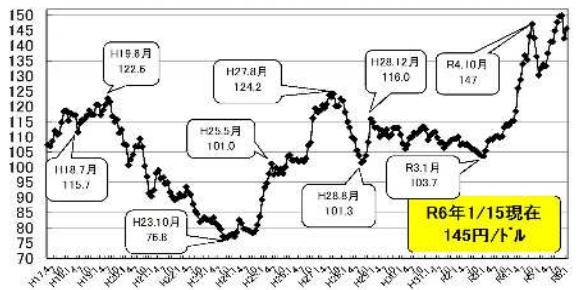
○ 海上運賃(メキシコ湾岸~日本)の推移 (単位:ドル/トン)



○ 大豆油かすのシカゴ定期推移 (単位:ドル/ショートン)



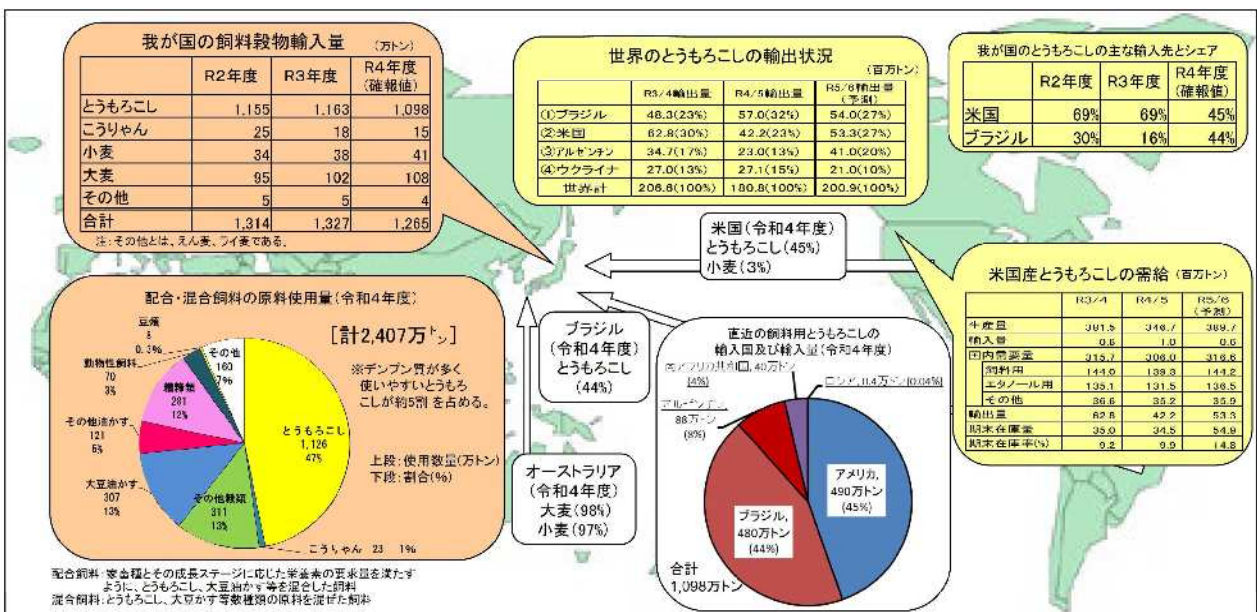
○ 為替相場の推移 (単位:円/ドル)



資料: 県畜産課調べ

カ 飼料穀物の輸入動向

- 飼料穀物の輸入量は、近年約1,300万吨程度で推移。主な輸入先国は、米国、ブラジル、オーストラリアなど。
- 飼料穀物のほとんどは輸入に依存しており、特に、使用割合が高いとうもろこしは、米国、ブラジルに大きく依存。



資料: 財務省「貿易統計」、USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (January 12, 2024)」、(公社)配合飼料供給安定機構「飼料月報」
注: 米国産とうもろこしの需給については、1bu=約0.025401tとして農林水産省飼料課において換算。

資料: 農林水産省「飼料をめぐる情勢」

キ 飼料の総合需給の推移（可消化養分総量（TDN）ベース）

（単位：千トン、％）

区 分		S60年度	H2年度	7年度	12年度	17年度	30年度	R2年度	R3年度	R4年度 (概算)		
需 要 量		A	27,596	28,517	27,098	25,481	25,164	24,498	24,937	25,071	25,003	
供 給 量 (消 費)	国 産	粗 飼 料	B	5,278	5,310	4,733	4,491	4,197	3,835	3,793	3,798	3,913
		濃 厚 飼 料	国 産 原 料	C	2,310	2,187	2,239	2,179	2,214	2,362	2,337	2,633
	輸 入 原 料		D	3,454	3,509	3,558	3,757	3,842	3,481	3,229	3,270	3,397
	小 計		E	5,764	5,696	5,797	5,936	6,056	5,843	5,566	5,903	6,046
	計		F	11,042	11,006	10,530	10,427	10,253	9,678	9,359	9,701	9,959
	輸 入	粗 飼 料	G	430	932	1,179	1,265	1,288	1,187	1,177	1,199	1,095
		濃 厚 飼 料	H	16,124	16,579	15,389	13,789	13,623	13,633	14,401	14,170	13,949
		計	I	16,554	17,511	16,568	15,054	14,911	14,820	15,578	15,369	15,044
	粗飼料合計（B+G）		J	5,708	6,242	5,912	5,756	5,485	5,021	4,971	4,997	5,008
	濃厚飼料合計（E+H）		K	21,888	22,275	21,186	19,725	19,679	19,477	19,967	20,074	19,995
諸 率	粗 飼 料 供 給 率		J/A	20.7	21.9	21.8	22.6	21.8	20.5	19.9	19.9	20.0
	粗 飼 料 自 給 率		B/J	92.5	85.1	80.1	78.0	76.5	76.4	76.3	76.0	78.1
	濃 厚 飼 料 自 給 率		E/K	26.3	25.6	27.4	30.1	30.8	30.0	27.9	29.4	30.2
	純国内産濃厚飼料自給率		C/K	10.6	9.8	10.6	11.0	11.3	12.1	11.7	13.1	13.2
	飼 料 自 給 率		F/A	40.0	38.6	38.9	40.9	40.7	39.5	37.5	38.7	39.8
	純国内産飼料自給率（B+C）/A			27.5	26.3	25.7	26.2	25.5	25.3	24.6	25.7	26.2
需 要 量 対 前 年 比			104.2	99.6	98.4	98.0	100.2	99.6	100.7	100.5	99.7	

資料：農林水産省畜産局飼料課